

県関係団体等における取組状況及び今後の課題

分野	発言内容
現状の課題・景況感	○ 製造業を中心に部品不足、原材料価格の高騰が起きており、一部の企業を除いて、大多数の企業はうまく価格転嫁できていない状況であると感じている。【中央会】
	○ 今は協力金を始めとした様々な給付金があり、そのような支援がないとなかなか経営が成り立っていかないといった意見も聞く。これらの給付金がなくなった後、どのように支援していくのが課題であると感じている。【県連】
	○ 実質無利子・無担保(ゼロゼロ)融資の返済が始まってくるが、計画どおりの返済といかず、追加融資の見込めない企業に対して、借換えや条件変更など、適切な対応がとれるよう、導いていくことが経営支援機関の仕事であると考えている。【県連】
	○ 商店街の個人事業主の話を聞いていると、これからどうなるのか先行き不透明といった話が多く寄せられている。多くの企業は、緊急事態宣言の発令と解除の繰り返しでとても疲弊しているという印象である。【愛商連】
	○ 中小企業のデジタル化対応について、毎日の業務で精一杯の人が、いくら業務の合理化に繋がるからといって、すぐに導入とはいかない。多くの中小企業は、関心はあるものの、何からどのように取り組んでいけばよいか分からないという現状である。【あいち機構】
	○ コロナ対応や原材料価格高騰といった目の前の課題のほか、年々上昇する国の最低賃金の達成、インボイスの導入などといった、企業自身の努力ではどうにもならない外的要因による課題もあると感じている。【県連】
	○ コロナ禍において、現在、有効求人倍率は緩やかに回復しており、雇用調整助成金などの支援施策の効果もあり、10年前のリーマンショックと比較して労働情勢はよいと感じている。【労働協会】
	○ アフターコロナを見据えると、構造的な問題としての人手不足・労働力不足は大きな課題である。就職合同説明会を開催しても、企業はすぐに集まるが、求職者がなかなか集まらないのが現状である。【労働協会】
団体における取組内容	○ 我々の支援の方向性として、今までどおりのことをしていてもダメなので、SNS など、新たな要素を取り込むべく、ひとまず経験してもらうための取組を始めた。現時点では、開始したばかりで成果は分からないが、どんどん改良していかなければならないと感じている。【愛商連】
	○ 今年度、会員組合のテレワーク化を支援するため、講習会を開催するための費用の助成及びテレワーク機器の導入費用に対する助成を行った。機器の導入支援補助については、想定を超える申請があり、ニーズの高さを感じた。 また、指導員が会員に直接働きかけることにより、取り組んでみようといった会員が多く、小回りが利いた支援を行うことができた。【中央会】

分野	発言内容
現状の課題	○ 当協会の様々な事業において、ウェブセミナー等を取り入れてはいるものの、一長一短があり、やはり対面で受講したいといった参加者もいる。最近ではオンラインと対面を併せたハイブリッド方式で実施するなど、試行錯誤している。【労働協会】
	○ 社員がデジタル化を進めていきたいと考えていても社長が反対するケース、反対に、社長は進めていきたいと考えているが対応できる社員がいないというケースもある。そのため、いかにデジタル技術を活用するハードルを下げてやっていくかということ念頭において進めている。【あいち機構】
今後の課題	○ 本ビジョンの進捗に対しては、網羅的に取り組んでいただいております、やる気のある企業に対しては、多くの支援施策があると感じた。一方で、多くの足元の中小企業は、原材料価格高騰への対応など、現在直面している課題に対応することが手一杯であり、なかなか先を見据えて取り組むことができていないのが現状である。 そのため、先進的な取組ができる企業はどんどん取り組んでいただき、愛知県の雰囲気良くなれば全体が救われるため、これからも進めていっていただきたい。【中央会】
	○ 例えば、国の持続化補助金を活用して、販路開拓のためのパンフレットやホームページの作成など、業態転換までとはいかないまでも、限られた補助額の中で売上を伸ばすための努力をしている企業がいる。そういった前向きな企業を支援することをこれからも実施していただきたい。【県連】
	○ 自動運転や航空宇宙産業などに取り組むことができる企業は一部である。自動車産業においては、EV化が進む中で、特にエンジン部分の下請け企業はなくなってしまっているのではないかとこの噂も聞こえてくる。 自主的に新たな取組をやっていける企業以外についても、業種転換や新分野進出といったことを進めていかなければならない。自動車関係の部品会社が、今後生き残っていけるような取組を考えていくことが必要である。【県連】
	○ 愛知県は全国一である 36,000 人程度の技能実習生がいる。一部の企業からは技能実習生がいないと技能継承できないという話をよく聞いている。 一昔前は、中国人の技能実習生が一番多かったが、中国が人手不足となり、今はベトナム人が一番多くなっている。韓国が自国の労働者と同じ待遇を取るようになり、賃金もどんどん上がっていることから、いずれはベトナム人も韓国にシフトしていったのではないかと。そういった技能実習生に対する課題についても、目を向けてほしい。【能開協会】
	○ どんな施策を実施するにしても、情報をいかに周知するかが重要である。知っている人が得をして、知らない人が損をするといったことを解消するためにも、我々支援機関等を通じて末端まで周知していくことが重要である。【県連】

※かっこ書きは、発言団体名

◎計画策定に携わっていただいた県関係団体等に対して、県の取組状況を説明の上、意見聴取を実施
参加団体：公益財団法人あいち産業振興機構【あいち機構】、愛知県商工会連合会【県連】、
愛知県中小企業団体中央会【中央会】、愛知県商店街振興組合連合会【愛商連】、
公益財団法人愛知県労働協会【労働協会】、愛知県職業能力開発協会【能開協会】